

# 水機構ニュース

「水機構ニュース」では、水資源機構からの最新ニュースを中心に、水にまつわるさまざまな情報をお届けします。



## 「第二十五回水シンポジウム2021 in ぐんま」が開催されました！

八月二十六日、「第二十五回水シンポジウム2021 in ぐんま」がオンラインで開催されました。このシンポジウムは、市民と土木学会、行政と民間が一堂に会し、開催都道府県の水に関わる諸問題とともに議論し、相互理解と情報共有を図るもので、毎年開催されています。今回のテーマは「利根川水源県ぐんまからの発信」～歴史、文化、自然の恵みを未来へつなぐために～。利根川は、群馬県の北部県境にある大水上山（みなかみ町）を水源とし、様々な川を合わせながら関東平野を東に流れ、千葉県銚子市で太平洋に注ぐ大川です。群馬県における、環境、文化、災害等の経験を踏まえ、「気候変動に備える水源県としての治水・利水機能の役割」や「水辺の自然、親しみと潤いのある空間、人とのつながり」などについて議論し、水源県の立場から、社会環境、気象環境の変化に応じた治水・利水・人と水との関わりなどの在り方について講演やパネルディスカッションが行われました。

来賓挨拶では、群馬県知事、高崎市市長、関東地方整備局長に続いて水資源機構の金尾理事長が「今後も安定的に水を供給するため、本日の議論や提言を踏まえ、引き続き施設の適切な建設や管理に努めてまいります」と述べました。

特別講演、基調講演に続く第1分科会「(気候変動に備える)水源県としての治水・利水機能の役割」には、水資源機構から下久保ダム管理所の石橋所長と田野前所長がパネリストとして登壇しました。下久保ダムは群馬県藤岡市と埼玉県児玉郡神川町に跨るダムで、利根川上流ダム群の一

### 開催概要

#### 第25回水シンポジウムinぐんま

- 日時: 2021年8月26日(木) 10:00～17:15
- 開催方法: WEB配信
- 主催: 「第25回水シンポジウムinぐんま」実行委員会  
構成団体: 公益社団法人土木学会水工学委員会、国土交通省関東地方整備局、群馬県、高崎市、独立行政法人水資源機構

### プログラム

- 10:00 開会
- 10:10 来賓挨拶(群馬県知事、高崎市市長、関東地方整備局長、水資源機構理事長)
- 10:35 特別講演: 「利根川水系の水災害と水源県ぐんまの役割」  
講師: 群馬大学大学院理工学部 教授 清水義彦氏
- 11:15 基調講演: 「水のくに群馬 ー4つの顔ー」  
講師: 高崎商科大学 特任教授 熊倉浩靖氏
- 12:55 第1分科会: 「(気候変動に備える)水源県としての治水・利水機能の役割」
- 14:25 第2分科会: 「水辺の自然、親しみと潤いのある空間、人とのつながり」
- 15:55 市民団体発表: 「長野原町の魅力 'Ko・So・A・Do」  
市民団体: 一般社団法人 つなぐカンパニーながのはら
- 16:35 全体会議
- 17:05 次回開催県挨拶: 山形県
- 17:15 閉会

つです。分科会では、利根川上流ダム群の治水・利水の役割を、近年の洪水の事例を紹介しながら整理しました。今後気候変動の影響により、水害のさらなる頻発・激甚化や渇水期間の増大が懸念される中で、その役割がどう変化するかを、あらゆる関係者が協働して流域全体で対応する「流域治水」の視点や各パネリストの知見も交えながら意見交換しました。

## 読者の声

読者の皆様から寄せられた「水とともに 2021・秋号」へのご意見・ご感想を紹介します

今年で管理開始から50周年を迎えた利根川河口堰の、過去と現在の比較写真に興味を惹かれた。同じアングルから撮影した写真を見て、現在に至るまでの部分がどのように変わってきたのかを探して、楽しむことができた。

(特集 利根川河口堰五十周年～今昔物語) (20代・男性)

利根川河口堰は、下流域一帯の塩害防止、都市用水、農業用水に大きな効果を発揮したと理解できた。

(特集 利根川河口堰五十周年～今昔物語～) (70代・男性)

江戸時代の大規模な工事や、人々の情熱には近現代のすべてがわかっているものとはまた違ったロマンを感じるから読んでいて楽しいです。

(連載 江戸期の水の技術者 群像) (10代・男性)

最近になって「線状降水帯」という言葉を多く聞くようになり、各地で甚大な被害が報じられます。その度に、もしダムがなかったらもっと大きな被害が発生しているのだらうと、ダムの存在を改めて身近に感じています。

(気象キャスターが解説! 天気のみカタ) (60代・男性)

裏表紙「水とのふれあい」フォトはいつもながら癒しと、美術像脳内想像力拡大の安らぎを感じます。

(水とのふれあいフォトコンテスト) (60代・男性)

映像と音声により、誌面とは異なるインパクトがあった。ダムの重要性、事前放流の判断、渇水の対応などよく理解できた。

(今号のピックアップムービー) (60代・女性)

## 本号の主なご紹介施設

愛知県: 愛知用水

岐阜県: 阿木川ダム

特集 中部を支える木曾川水系  
水資源開発と管理の足跡

表紙 岐阜県: 岩屋ダム

P16 千葉県: 成田用水・北総東部用水

トピックス 利根川の豊かな水を運んで40年  
～北総台地を潤す成田用水・北総東部用水～

P24 大分県: 大山ダム

今号のピックアップムービー

## 編集後記

秋もすっかり深まり紅葉の美しい季節になりました。水資源機構は全国転勤があるため、各地に職員用の宿舎を備えています。本社勤務の私はさいたま市に住んでおり、近くには日本で唯一の盆栽に特化した美術館があります。先日訪れたのですが、公園や並木通りで見るとはひと味違う、鉢の中で表現された紅葉がとてもきれいでした。

2021年は機構施設周年ラッシュということもあり、今号では関東から中部、九州までたくさんの施設をご紹介します。来年も様々な地域・施設を取り上げていきたいと思っておりますので、広報誌「水とともに」をよろしくお願いたします。2022年が皆様にとって良い年となりますように。